



# 神奈川事業本部 123 運動ニュース NO4

第24次123運動  
2012年1月31日  
発行 神奈川事業本部  
(担当 松垣 芳伸)

エリアごとに開催してきた神奈川事業本部の123集会の締めくくりとして、横浜エリア123集会「地域をともに創る～社会連帯がつなぐ明日への絆～」が、29日に横浜市泉区で開催されました。当日の参加者は111名で、ワーカーズコープ・キュービックの加藤専務、平尾さんはじめ理事の方々、生協戸塚病院の坂口リハビリ科長、坂井前衆議、松本県議、岩崎市議、泉区で3月に開所する「かけはし」の立ち上げメンバーや「虹の会」はじめ地域の賛同者の方々、講座修了生や受講生、津軽三味線演奏の原田くんが地域から参加して頂き、東北復興本部からは登米事業所の青木未知さんに参加していただきました。

今回の集会では、横浜エリア123運動の基調提起に引き続き、神奈川事業本部の青木まり子さんから、社会連帯神奈川の昨年の計12回にわたる復興支援ボランティア取り組みが報告されました。そして生協戸塚病院の坂口リハビリ科長からは、被災地での医療支援の取り組みとともに、ワーカーズコープの仲間へのあたたかいまなざしを感じるスライドを交えながら、社会連帯活動、FEC自給圏の創造への共感と連帯のメッセージを語っていただきました。また東北復興本部の青木未知さんからは、震災対応人材育成事業からの被災地での仕事おこしの取り組み真っ只中での格闘を、実感を込めて報告してもらいました。

後半はエリア各事業所の決意が語られました。ワーカーズコープ・キュービック理事の平尾さんから、横浜市買い物サポート事業の取り



組みから見えてきた地域の課題について報告して頂いたあと、横浜中部事業所の塚本所長からは、事業が年度末で終了する状況の中で、「まちづくり・くらしのサポーター養成講座」の開催や、来年度「就労困難な若者による地域課題解決型仕事おこし（新しい公共の場づくりのためのモデル事業）」がはじまることなどをきっかけに、コミュニティハウスを運営する地域から社会連帯を助け、安心して住み続けられる地域づくりと、それを支える「くらしのサポート事業」を市民・若者とともに展開していく決意が語られました。

横浜泉事業所の須山所長からは、昨年の泉寿荘の落選後、念願の元気高齢者の居場所づくりとデイサービスを合わせた地域拠点「かけはし」をいよいよ3月に開所することが報告されました。元気高齢者の「虹の会」の阿部さんからも力強い連帯の挨拶を頂きました。

最後に戸塚であいの家の平山所長からは、事業所開設以来ずっとあたたためてきた、誰もが住み慣れた地域の中で最後まで住み続けられるための「戸塚終の住処事業構想」の実現に向けた、思いのこもった決意表明と立ち上げ準備会への参加呼びかけがされました。その場で坂口科長から構想への賛同と準備会への参加が表明され、地域に足を踏み出し、思いを語り動き始めることで連帯の輪が確実に広がることを実感しました。

横浜事業所、こちちも含め、横浜エリア全体がいよいよ本格的に社会連帯に向かい、そのこととFEC自給圏の創造がつながることを確信する、神奈川事業本部の123集会の締めくくりにあふさわしい横浜エリア123集会になりました。さあ、これからが本番です！

